

問1	戦国大名による領国支配の実態について述べた文として、当時の法律の内容や背景から考えて正しいものはどれか。（2024年 奈良県公立入試 類似）			
	1. 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。	2. これらの法律は、全国の戦国大名が合議によって作成した全国共通のルールであった。	3. 分国法においては、武士同士の紛争はすべて室町幕府の裁判所に委ねるよう定めていた。	4. 伊達氏の法典では、農民が年貢を納められない場合に備え、納税を免除する権利を認めた。
問2	1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。（2019年 大分県公立入試 類似）			
	1. ルネサンス	2. 宗教改革	3. 十字軍	4. 産業革命
問3	15世紀後半、ポルトガルの支援を受けたバスコ・ダ・ガマが、リスボンを出発してアフリカ大陸南端の喜望峰を経由し、到達に成功した地域はどこですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）			
	1. インド	2. 北アメリカ	3. カリブ諸島	4. 中国
問4	戦国時代、九州の種子島に伝来した武器をきっかけとして始まった南蛮貿易について、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2016年 長野県公立入試 類似）			
	1. キリスト教の布教は厳しく制限され、貿易の窓口は長崎の出島に限定された。	2. 銀や銅を輸出する代わりに、欧米から蒸気機関などの近代技術が導入された。	3. 幕府の許可を得た朱印船により、東南アジア諸国との間で盛んに行われた。	4. キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。
問5	戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。（2025年 京都府公立入試 類似）			
	1. 寄親	2. 戦国大名	3. キリシタン大名	4. 守護大名
問6	1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどの国の人々ですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. イギリス人	2. ポルトガル人	3. オランダ人	4. スペイン人
問7	1543年に九州南部の種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について、その後の歴史に与えた影響として正しいものはどれか。（2016年 群馬県公立入試 類似）			
	1. 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した際、日本の武士が防衛のためにこの武器を組織的に使用して撃退した。	2. 戦いが騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。	3. この武器の伝来をきっかけに、日本独自の武術である剣術や弓術が廃れ、すべての合戦がこの武器のみで行われるようになった。	4. この武器の輸入を目的として、室町幕府の足利義満によって明との間で勘合貿易が開始された。
問8	16世紀の記録において「長さ二、三尺の筒状の道具で、火を放つと雷のような音がする」と描写された武器が、日本の築城技術に与えた影響として正しいものはどれですか。（2017年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。	2. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。	3. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	4. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。
問9	16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。（2020年 愛知県公立入試 類似）			
	1. 将軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国の有力大名に配布した標準的な枡である	2. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である	3. 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	4. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の容積単位に基づいた枡である
問10	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何といいますか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）			
	1. 分国法	2. 武家諸法度	3. 御成敗式目	4. 公事方御定書
問11	鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。（2014年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。	2. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	3. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。	4. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。
問12	15世紀末のヨーロッパでは、肉の保存や調味に不可欠な香辛料をイスラム勢力を介さず直接入手することが求められていました。この背景の中、ポルトガルの支援を受け、アフリカ大陸南端の喜望峰を回りインドへ到達する航路を切り開いた人物は誰ですか。（2018年 大阪府公立入試 類似）			
	1. マゼラン	2. コロンブス	3. マルコ＝ポーロ	4. バスコ＝ダ＝ガマ
問13	15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。（2018年 静岡県公立入試 類似）			
	1. 承久の乱	2. 応仁の乱	3. 壬申の乱	4. 観応の擾乱
問14	戦国時代において、下の身分の者が上の身分を圧倒する「下剋上」の風潮が広まった背景として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 熊本県公立入試 類似）			
	1. 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。	2. 朝廷が新しい官位制度を導入し、能力に応じた地位をすべての人々に与えたため。	3. 農業技術が向上したことで農民が完全に自立し、武士による支配が消滅したため。	4. 幕府が強力な中央集権体制を確立し、地方の武士に直接命令を下すようになったため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。	分国法は各戦国大名が領国の実情に合わせて個別に定めたもので、内容は多岐にわたります。朝倉氏の事例のように、家臣が勝手に拠点を作ることを禁じたり、役人（代官）を適切に配置したりする規定は、大名による中央集権的な支配を強める意図がありました。一方で、伊達氏の事例に見られるように、年貢の未納に対しては厳しい処罰を科すなど、農民に対しても強い統制を行っていました。
問2	答え 2 宗教改革	16世紀半ば、カトリック教会の腐敗を批判したルターは、聖書の教えこそが信仰の拠り所であると主張しました。この動きは「宗教改革」と呼ばれ、後にプロテスタントと呼ばれる新しい派閥を生むとともに、カトリック側による海外布教（イエズス会の結成など）を促すきっかけとなり、日本へのキリスト教伝来にも大きな影響を与えました。
問3	答え 1 インド	ポルトガルは香辛料などの直接取引を目指し、大西洋を南下してインドへ至る東回り航路の開拓を進めました。1498年にバスコ・ダ・ガマがカリカットに到達したことで、イスラム商人やイタリアの諸都市を通さずにアジアと直接貿易を行う道が開かれました。
問4	答え 4 キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。	ポルトガルとの南蛮貿易では、戦国大名たちが武力強化のために鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を強く求めました。宣教師たちは貿易の利益を背景に布教活動への協力を求め、多くの戦国大名が貿易の利潤を得るためにキリスト教の布教を許可しました。
問5	答え 3 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問6	答え 2 ポルトガル人	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問7	答え 2 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も堅固な石垣を持つものへと変化した。	1543年に種子島に伝わった鉄砲（火縄銃）は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬戦中心から、訓練された足軽による集団戦が主流となり、織田信長などの有力大名がこれを活用して全国統一を進めました。また、鉄砲の威力に対抗するため、城は高い石垣や堀を備えた大規模なものへと進化しました。
問8	答え 3 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐える強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問9	答え 3 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問10	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問11	答え 2 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。
問12	答え 4 バスコ＝ダ＝ガマ	ポルトガルはアフリカ沿岸を南下する独自のルートを探索していました。1498年にこの人物がインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接貿易が可能になり、ポルトガルに莫大な富をもたらしました。
問13	答え 2 応仁の乱	8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、守護大名の細川氏と山名氏が対立して始まったのが応仁の乱です。この乱によって幕府の権威は失墜し、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問14	答え 1 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。	応仁の乱をきっかけに室町幕府の権威が失墜すると、従来の身分秩序や支配体制が崩れました。それまでの守護大名に代わり、実力で領国内を統制し、富国強兵を進める戦国大名が各地に出現したことが、下剋上の象徴的な現象です。